TADOKU JUNIOR　せかいのなぜなに神話　★★★☆☆ ふつう　521語

How the Blossoms came to the Heather

ヒースに花がさいたわけ

Florence Holbrook（1902年の本）　**原文そのまま**　朗読：Anita Hibbard

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　花をもたない、はずかしがりやの小さな草ヒース。さびしい岩山が「だれか来て」とよびかけたとき、ヒースは……。



Only a little while after the earth was made, the trees and plants came to live on it. They were happy and contented. The lily was glad because her flowers were white. The rose was glad because her flowers were red. The violet was happy because, however shyly she might hide herself away, some one would come to look for her and praise her fragrance. The daisy was happiest of all because every child in the world loved her.

The trees and plants chose homes for themselves. The oak said, "I will live in the broad fields and by the roads, and travelers may sit in my shadow." "I shall be contented on the waters of the pond," said the water-lily. "And I am contented in the sunny fields," said the daisy. "My fragrance shall rise from beside some mossy

stone," said the violet. Each plant chose its home where it would be most happy and contented.

There was one little plant, however, that had not said a word and had not chosen a home. This plant was the heather. She had not the sweet fragrance of the violet, and the children did not love her as they did the daisy. The reason was that no blossoms had been given to her, and she was too shy to ask for any.

"I wish there was some one who would be glad to see me," she said; but she was a brave little plant, and she did her best to be contented and to look bright and green.

One day she heard the mountain say, "Dear plants, will you not come to my rocks and cover them with your brightness and beauty? In the winter they are cold, and in the summer they are stung by the sunshine. Will you not come and cover them?"

"I cannot leave the pond," cried the water-lily.

"I cannot leave the moss," said the violet.

"I cannot leave the green fields," said the daisy.

The little heather was really trembling with eagerness. "If the great, beautiful mountain would only let me come!" she thought, and at last she whispered very softly and shyly, "Please, dear mountain, will you let me come? I have not any blossoms like the others, but I will try to keep the wind and the sun away from you."

"Let you?" cried the mountain. "I shall be contented and happy if a dear little plant like you will only come to me."

The heather soon covered the rocky mountain side with her bright green, and the mountain called proudly to the other plants, "See how beautiful my little heather is!" The others replied, "Yes, she is bright and green, but she has no blossoms."

Then a sweet, gentle voice was heard saying, "Blossoms you shall have, little heather. You shall have many and many a flower, because you have loved the lonely mountain, and have done all that you could to please him and make him happy." Even before the sweet voice was still, the little heather was bright with many blossoms, and blossoms she has had from that day to this.

地球ができてまもなく、木や草花がそこにすむようになりました。みんな幸せで、まんぞくしていました。ユリは、自分の花が白いのでよろこんでいました。バラは、自分の花が赤いのでよろこんでいました。スミレは、どんなにはずかしがってかくれていても、だれかがさがしに来て、いいにおいだねとほめてくれるので幸せでした。ヒナギクは、世界じゅうの子どもたちに好かれていたので、だれよりも幸せでした。

木や草花は、自分のすむ場所をえらびました。カシの木は言いました。「わたしは広い野原や道ばたにすもう。旅人がわたしのかげにすわれるように。」「わたしは池の水の上でまんぞくよ」とスイレンが言いました。「わたしは日あたりのいい野原でまんぞくよ」とヒナギクが言いました。「わたしのいいにおいは、こけのはえた石のそばからただようわ」とスミレが言いました。どの草花も、いちばん幸せでまんぞくできる場所をえらびました。

けれども、ひとことも話さず、すむ場所もえらんでいない小さな草が、一本ありました。それはヒースでした。ヒースには、スミレのようないいにおいもなく、子どもたちもヒナギクのようにはヒースを好きではありませんでした。それは、ヒースには花がひとつもあたえられていなかったからで、ヒースははずかしがりやなので、花をくださいとたのむこともできなかったのです。

「わたしに会えてよろこんでくれる人がいたらいいのに」とヒースは言いました。でもヒースはゆうかんな小さな草だったので、まんぞくしようと、明るく緑にかがやいていようと、せいいっぱいがんばりました。

ある日、ヒースは山がこう言うのを聞きました。「草花のみなさん、わたしの岩のところへ来て、明るさと美しさでおおってくれませんか。岩たちは冬には寒く、夏には日ざしにちくちくさされるのです。来て、おおってくれませんか。」

「わたしは池をはなれられないわ」とスイレンがさけびました。

「わたしはこけをはなれられないわ」とスミレが言いました。

「わたしは緑の野原をはなれられないわ」とヒナギクが言いました。

小さなヒースは、行きたくて行きたくて、ふるえるほどでした。「あの大きくて美しい山が、行かせてくれさえしたら！」とヒースは思い、とうとう、とても小さな声ではずかしそうにささやきました。「おねがいです、山さん、わたしが行ってもいいですか。ほかのみんなのような花はありませんが、風やお日さまからあなたをまもるよう、がんばります。」

「来てもいいかだって？」と山はさけびました。「きみのようなかわいい草が来てくれるなら、わたしはそれだけでまんぞくで、幸せだよ。」

ヒースはまもなく、岩だらけの山はだを明るい緑でおおいました。山はほかの草花たちに、とくいそうによびかけました。「ごらん、わたしの小さなヒースはなんて美しいんだろう！」ほかの草花は答えました。「ええ、明るい緑ね。でも、花がないわ。」

すると、やさしい美しい声が聞こえました。「小さなヒースよ、花をあげましょう。たくさんたくさん花をあげましょう。ひとりぼっちの山を愛し、山をよろこばせ幸せにしようと、できるかぎりのことをしたので

すから。」そのやさしい声がまだ消えないうちに、小さなヒースはたくさんの花で明るくかがやきました。
そしてその日から今まで、ヒースには花がさいているのです。

たんご と クイズ　ヒースに花がさいたわけ

rose バラ	**violet** スミレ	**daisy** ヒナギク
water-lily スイレン	**pond** 池	**mountain** 山
blossoms 花		

Q1 ヒナギクがいちばん幸せだったのはどうして？

① いちばん大きいから　② 世界じゅうの子どもに好かれたから　③ いいにおいがするから

Q2 山のよびかけに「行きたい」と言ったのはだれ？

① ヒース　② スミレ　③ スイレン

Q3 さいごにヒースはどうなった？

① 山からおちた　② スミレになった　③ たくさんの花がさいた

こたえ

Q1 ②　ヒナギク（daisy）は、世界じゅうの子どもたちに好かれていたので、いちばん幸せでした。

Q2 ①　ほかの草花はことわりましたが、小さなヒースがはずかしそうに「行ってもいいですか」と言いました。

Q3 ③　ひとりぼっちの山を愛してがんばったので、ヒースはたくさんの花でかがやくようになりました。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #22420（Florence Holbrook、1902年）。パブリックドメイン。
挿絵：この本には挿絵がないため、場面をイメージして AI（Codex）で描いた絵です。
朗読（Web版）：Anita Hibbard（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは 3 重チェック。人の目でも順次確認しています。